

第13回

調布東山病院

医療・介護勉強会

7月22日(金)
18:00～
オンライン開催!!

のご案内

～ 学び合おう！ 関係性を築くケア ～

痛い、嫌、と言われて、ケアができない時、病院では、施設では、在宅では、みんなどうしているのだろう…

ユマニチュード院内リーダーと一緒に事例検討を行い、
地域で認知症ケアで大切なことを学び合いたいと思います。

プログラム

1. ユマニチュード院内リーダーのご紹介

演者 / 調布東山病院看護部 ユマニチュード院内リーダー

2. 地域の介護職より「痛い、嫌、と言われて、ケアができない時」

演者 / 末平 真奈美 (ハニーケアサービス 介護福祉士)

3. グループワーク

事例を通して、「本人と関係性を築くケア」を実践する方法を考えます。

1. ケアの拒否があるときの現場の思い、どのようなケアができたら良いのだろうか。
2. 「本人と関係性を築くケア」を実践する方法をグループのユマニチュード院内リーダーと考える。

4. グループ発表と総括

事例 A氏 90代 女性 アルツハイマー型認知症 要介護4

介護サービスを利用し、自宅で娘さんと暮らしていましたが、徐々にケアの拒否が強くなり施設に入所しました。

A氏は紙パンツに失禁されていましたが、排泄ケアの拒否が強く、スタッフがケアできない日もありました。2022年5月、A氏は誤嚥性肺炎と尿路感染症で入院。入院中も、処置やケアは、「痛い、痛い、痛い、やだ、やだ」と拒否されており、処置やケアの時は、看護師2人以上でユマニチュードの技術を取り入れて対応していました。A氏は、徐々に衰弱し、経口摂取が困難となり、人生の最終段階と判断されました。話し合いを繰り返した結果、娘さんから「残された時間、自宅で過ごさせてあげたい」と、自宅への退院の希望がありました。急遽、ケアマネジャーが選定され、訪問診療、訪問看護、ヘルパー、介護ベッドを導入して退院となりました。

～～*～*～*

退院翌日です。ご自宅では、ケアをしようとする「痛い、痛い、痛い、やだ、やだ」とA氏の拒否があり、娘さんは困っています。ヘルパーさんも、触れようとするだけで、A氏が大きな声で拒否するため、困っています。訪問看護師が訪問した時に、看護師がユマニチュード院内リーダーから聞いた「本人と関係性を築くケア」を娘さんとヘルパーさんに伝え、一緒にケアを試みたところ、排泄ケアを行うことができました。しかし、娘さんは、「私ひとりでは、とてもできません」と涙ぐまれています。

日時 / 2022年7月22日(金)18:00～19:30 入室開始 17:30～

開催形式 / WEB (Zoom 使用) 参加費 / 無料

※お申込みが多数の場合は先着順とさせていただきます。

※複数名でご視聴・ご参加いただいても結構です。

※事前に接続テストを行います。接続環境等、ご不安な方はぜひご参加ください。

申込方法

応募締切：2022年6月30日(金)

<https://forms.gle/EAxnx1NJ6i22UKZ9A>

申込フロー

- ①右のQRコードを読み込むかURLをご入力ください。
- ②申込フォームに必要事項をご入力のうえ、送信ください。
- ③確認メールが届きますので、当日まで保管をお願いします。
- ④7月初旬にご登録いただいたメールアドレスに参加URLをお送りします。



※キャンセルの場合はご一報くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ / 調布東山病院 在宅事務課 光永 (電話：042-428-2571)